

資料 2

令和5年度水産関係事業予算の概要について

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
【水産課】		
漁協経営基盤強化対策事業費	7,000 (-) ⊖ 7,000	<p>① 1 漁協経営基盤強化対策事業費 7,000</p> <p>欠損金処理に対する支援および対内的指導監督要員配置等、県一合併による組織再編を進めるために必要な取組に対する支援を行う。</p>
水産基盤整備事業費	73,356 (206,141) 国 23,000 繰 2,000 起 35,000 ⊖ 13,356	<p>1 水産基盤整備事業費 73,356</p> <p>(1) 水産基盤整備調査費 41,211 シジミの増産効果を向上・安定させる条件を調査し、その成果を今後の砂地造成および造成箇所の維持管理に活用することで漁場環境の改善を図り、シジミ資源の早期回復を目指す。</p>
流通対策費	26,202 (19,002) 国 8,850 ⊖ 17,352	<p>① 1 びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業費 7,700</p> <p>学校給食における多様な湖魚の利用を促進するとともに、新メニュー開発や研修会への支援、関係者に湖魚の利用方法などの情報提供、食育活動に対し支援を行う。</p> <p>② 2 多様で革新的な流通モデル実践事業費 10,000</p> <p>今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、漁業組織が経営スキルの強化を目的に、流通事業者と連携して新たな流通モデルの検討・実践を行う取組に対し支援を行う。</p> <p>3 水産業養殖用配合飼料価格高騰緊急対策事業費 7,700</p> <p>養殖用配合飼料の高騰により経営に大きな影響を受けている養殖業者の負担を軽減するため、国が実施する漁業経営セーフティネット構築事業において補填金として取り崩しされた養殖業者積立金の一部を支援する。</p>

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
水産有害生物対策事業費	26,733 (30,193) ⊖ 26,733	<p>1 有害外来魚ゼロ作戦事業費 24,673</p> <p>外来魚ゼロを目指し、捕獲駆除や繁殖抑制を中心に、総合的な事業を展開するとともに、検討会の意見を踏まえ、生息状況に応じた効果的な駆除が行えるよう進行管理を行う。</p> <p>(1) 外来魚駆除促進対策等事業費補助金 23,653 漁業者による外来魚駆除に要する捕獲経費を補助するとともに、傭船によるチャンネルキャットフィッシュの集中的駆除に要する経費を補助する。また、捕獲された外来魚の回収と有効利用に係る経費を補助する。 駆除量：85 トン</p> <p>2 カワウ漁業被害防止対策事業費 2,060</p> <p>カワウによる河川における漁業被害を軽減するため、花火による追い払いや防鳥糸の設置、銃器による駆除に対し支援を行う。</p>
多様で豊かな湖づくり推進事業費	81,501 (69,716) 国 14,355 諸 8,626 ⊖ 58,520	<p>挑 1 ニゴロブナ栽培漁業推進事業費 25,784</p> <p>栽培漁業の中核的魚種であるニゴロブナ種苗を生産放流するとともに、放流効果を調査する。 20mm サイズ種苗：800 万尾 120mm サイズ種苗：90 万尾</p>

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
		<p>2 多様な水産資源維持対策事業費 8,987</p> <p>琵琶湖固有種であるビワマスや、ウナギの種苗放流事業に要する経費を補助する。 ビワマス種苗：700万尾 ウナギ種苗：1,000kg</p> <p>3 アユ等水産資源維持保全事業費 39,902</p> <p>(1) 人工河川管理運用事業 33,776 産卵用人工河川を稼働し、効果的にふ化したてのアユを琵琶湖に流下させ、アユ資源の安定維持を図る。 養成親魚：8トン 天然親魚産卵繁殖対策：4トン</p> <p>4 セタシジミ資源の持続的管理実証事業 3,828</p> <p>セタシジミの効果的な資源管理のため、再生産の現状把握と資源管理目標の検証、種苗量産放流技術の確立と漁場への種苗放流、親貝の移植放流や禁漁等を行うとともに、検討会において効果的な資源回復手法を検討する。</p> <p>⑤ ニゴロブナ生残率向上条件解明研究事業費 3,000</p> <p>相互に識別可能な標識を施した20mm種苗を赤野井湾を含む湖内3か所に同一条件で放流し、その後の成長や生残を比較検討することでニゴロブナの成長・生残を向上させるために必要な知見を収集する。</p>

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
河川漁業振興費	4,067 (4,067) ⊖ 4,067	1 川の魅力まるごと体感事業 1,067 河川漁業の振興のため、河川漁業への県民の理解の促進と遊漁者の増加に向けた取組を実施する。
水産業改良普及事業費	22,955 (19,992) 国 10,517 ⊖ 12,438	挑 1 しがの漁業担い手スキルアップ事業費 12,450 漁業就業研修から、漁家経営スキルの向上、さらに湖魚販売の実践まで、担い手の意欲に合わせたサポートを行い、意欲ある漁業担い手の確保と育成を図る。 2 琵琶湖漁業ICT化推進調査事業費 1,800 沖曳網漁業での漁労行為をデータ化することで、漁獲の安定化、漁労技術の継承を図る。また、ビワマス小糸網漁業の網掛かり時間帯等を把握し、高品質ビワマスの漁獲割合増により、魚価の向上を図る。

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
		<p>③ 県がセールスマンとして“湖魚”のPR・消費拡大に取り組む事業 7,000</p> <p>コロナ後を見据えた、湖魚の戦略的なPRに本県水産業全体の振興の観点から県が主体的に取り組み、消費者、漁業者、事業者の声や不安に応え、“湖魚のセールスマン”として湖魚の消費拡大をあと押しする。</p>
琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費	<p>40,695 (42,178)</p> <p>国 595</p> <p>⊖ 40,100</p>	<p>1 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業費 40,695</p> <p>赤野井湾を本プロジェクトの最重要拠点と位置付けて、南湖・内湖では水草除去や外来魚駆除、種苗放流による水産資源の回復、漁場の再生を図り、北湖では産卵繁殖場の機能改善による水産資源の増大を図る。さらに、河川での環境保全活動も支援する。</p>
漁業調整指導費	<p>10,439 (11,576)</p> <p>国 2,452</p> <p>使 2,134</p> <p>⊖ 5,853</p>	<p>1 しがの漁場利用ルールの見える化推進事業 3,000</p> <p>琵琶湖や河川の漁場の位置や利用ルール（禁止区域、禁止期間、遊漁料金等）を集約したウェブアプリに漁業権漁場情報のアップデートやビワマス引縄釣遊漁者からの採捕報告機能を追加し、利便性の向上や遊漁を含めた資源評価の迅速化を図る。</p>

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
<p>【水産試験場】</p> <p>試験研究調査費</p>	<p>16,304 (14,053)</p> <p>国 5,454</p> <p>諸 250</p> <p>⊖ 10,600</p>	<p>水産行政が直面する重要課題の中で、特に技術的解明が急がれる事項について、重点的かつ積極的に調査研究を行う。</p> <p>1 アユ資源・漁獲情報発信高度化研究 1,450</p> <p>アユのふ化時期を考慮した資源評価モデルを開発するとともに、科学計量魚探等を用いた精度の高い資源・漁獲動向予測技術を開発し、人工河川による迅速な増殖対策や資源管理等への施策へつなげる。</p> <p>2 外来魚駆除対策研究 3,176</p> <p>外来魚の生息状況を的確に把握し、その変動要因の解明に取り組むとともに、駆除量を増大させるための効率的な駆除技術を開発する。また、分布域を拡大しているチャンネルキャットフィッシュの防除対策研究に取り組む。</p> <p>3 湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究 563</p> <p>流入負荷削減などのこれまでの取組によって水質指標は改善されたが、近年では漁場の生産力が低下していることを疑わせる事象が頻発しているため、湖底に蓄積した栄養塩を水中に回帰させることによる漁場生産力の回復技術の実証研究に取り組む。</p> <p>4 淡水真珠母貝の生産安定化研究 973</p> <p>真珠養殖における課題である母貝の安定的な生産技術の開発に取り組む。また、本来の琵琶湖淡水真珠を復活させるため、在来イケチョウガイの系統保存に着手する。</p>

単位：千円

事業名	当初予算額 (前年度予算額)	説明
		<p>⑤ 「滋賀の水産業強靱化プラン」推進研究 2,617</p> <p>「少数でも精鋭の“儲かる漁業”の実現のため、ICTを活用した漁獲情報の迅速な収集を図りながら、より高度な資源の調査や評価を実施する。また、効率的な漁具・漁法の研究・普及、水産物の利用にかかる研究・普及に取り組む。</p>
調査指導費	<p>1,510 (1,510)</p> <p>国 1,000</p> <p>⊖ 510</p>	<p>1 特産マス類を用いた河川利用の高度化と優良種苗化研究 1,510</p> <p>適切で効果的な河川への種苗放流方法を開発するとともに、姿形が美しく、放流効果の高いアマゴ・イワナ種苗を作出し、先の放流方法と組み合わせることで、河川漁協の経営安定化を図る。</p>